

第 1 回地域医療構想調整部会の結果概要

開催日時	平成 27 年 8 月 7 日（金）13 時 00 分～14 時 30 分
会議概要	病床機能報告制度の集計結果、必要病床数等の推計結果、策定スケジュールの共有を目的に実施 （議題） 地域医療構想の策定について 病床機能報告制度の報告内容の共有について 国のデータに基づく県西地域の必要病床数の推計結果について 地域医療構想策定に係るスケジュールについて

【主な意見等】

- ・例えば、がん患者などが流出するのはある程度やむを得ないのかなと思うが、急性心筋梗塞や脳卒中などの救急については時間を争うことから、本当にやむを得ない場合を除いて流出すべきではないと思う。
- ・問題になるのは、「急性期」という言葉。在宅に戻った人が具合が悪くなってまた入院するときに、その部分を地域包括ケア病棟が担っているはずだが、そのあたりがあいまいのようだ。
- ・地域医療構想策定タイムスケジュールによると、来年の 10 月までに策定することになっている。日程的にタイトであり、十分議論が尽くせるのか疑問である。
- ・地域包括ケアシステムへの取組みという大きな流れの中で、中核となる医療機関は「急性期」だと思う。そうすると急性期は増えるという考え方もあるかと思うが、いずれにしてもこの厚生労働省の考え方だけでよいのかどうか、この地域のことをどう考えていくか、こうした議論をするには時間が短いと思う。
- ・昨年 10 月に各病院が提出した病床機能報告は、あまりに不確定要素が多いと思う。現状に照らし合わせて回復期と慢性期のイメージがはっきりしていない。
- ・4 区分について、各病院はいろいろ議論して報告している。それに対して国はいろいろなデータを駆使してこの地域は急性期がこのくらい、回復期がこのくらいと出したのだと思うが、それぞれの病院が報告したものと異なる構想ができ、それに従いなさいとなると何のために報告したのか、釈然としないものがある。
- ・この地域の特徴として規模が比較的小さい病院が多いということがあり、それぞれお互いに協力して地域医療を支えている。地域包括ケアシステムが地域に根付いていくとすれば、それはクリニックの先生と協力して在宅をしっかり支える病院にならなければならないということであり、それには「急性期病院」が絶対に必要だと思う。
- ・資料 4 - 2 によると、県西地域の回復期病棟は、現状は 89 床、2025 年には 769 床あるいは 898 床が必要、県全体では現状 4,427 床、2025 年 2 万床以上必要という推計値が出ている。各医療機関がこれを真剣に考えなさいという示唆だと思っているが、それならば「回復期」のイメージ（基準）を明確にしていきたいと思う。
- ・いろいろな情報を早くいただければ内部でもいろいろ議論できる。できるだけ早い情報提供をお願いします。
- ・回復期の考え方についてだが、去年の 10 月に病床機能報告を提出した時には、4 機能区分がはっきりしない中で、それぞれの医療機関の考えで自己申告をしたと思う。基準がはっきり出てくれば昨年とは違う報告になる可能性は十分にある。